

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12178

研究課題名(和文) 看護師のキャリア支援のためのトラジション理論に基づいた状況特定理論の開発

研究課題名(英文) Current situations of transitions among Japanese Mid-career nurses and developing a self-assessment rating scale for transition conditions within the framework of Meleis Middle-range Theory

研究代表者

高桑 優子 (Takakuwa, Yuko)

順天堂大学・保健看護学部・准教授

研究者番号：40738241

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：Meleisのトラジション理論枠組みを用い、キャリアの転換期である中期キャリアの看護師のトラジション状況を質的帰納的に分析し、明らかになった中期キャリア看護師の「トラジション状況」を基に、中期キャリア看護師トラジション状況自己評価尺度(TCSAS)を作成した。その後尺度の信頼性・妥当性を検討後、尺度を試用し活用可能性の検討を行った結果、TCSASは、構成概念妥当性、信頼性を有し、本質、反応のパターンに弁別力を持った尺度であることが明らかになり、中期キャリア看護師のトラジション状況を自己評価する上で活用可能な尺度が作成できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

測定された尺度の総合点と下位尺度の得点で自身の現在の状況が明らかになり、停滞しているキャリアの状況を浮き彫りにすることが可能となると考える。それは今までの既存のキャリア尺度では測定できなかったキャリアドリフトを含む迷いや、家族や他者を優先しなければならない状況を明確にすることが可能になると考える。本研究で開発したTCSASは、自己のキャリアを内省し、行き詰まりや停滞に気づき、トラジションを促進させる機会をもたせ、キャリア発達に資することができる尺度であると考えられた。これにより、安易な看護職の離脱を防ぎ、増え続ける潜在看護師化の歯止めとなり得るといえる。

研究成果の概要(英文)：Using Meleis's transition theory framework, we qualitatively and inductively analyzed the transition condition of mid-career nurses, who are at a turning point in their careers. Based on the clarified "transition condition" of mid-career nurses, we created the mid-career nurse transition condition self-assessment scale (TCSAS). After examining the reliability and validity of the scale, the scale was tried and the feasibility of using it was examined. As a result, it was clarified that TCSAS is a measure that has construct validity and reliability, and has discriminative power in essence and reaction pattern. We have created a scale that can be used to self-assessment the transition condition of mid-career nurses.

研究分野：看護学

キーワード：キャリアトラジション 中期キャリア看護師 尺度開発 トラジション状況尺度

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2025年問題が迫る中、看護師不足が現実味を帯び、中でも看護師の離職と潜在化によるマンパワー不足が深刻であった¹⁾。また、女性のキャリア育成と看護の質の保証のため中期キャリアと呼ばれる35歳から45歳の看護師のキャリアの支援は重要であると考えられた¹⁾²⁾³⁾。女性として様々なライフイベントがある中期キャリア看護師にとって、キャリアを継続するには効果的なトランジションが有用であると考えた。そこで、Afaf I. Meleisらが構築したトランジション理論(Transitions Theory)を用いて研究を進めることにした。

トランジション理論はMeleisらによって中範囲理論として2000年に構築され、「トランジションのタイプとパターン」「トランジションの経験の特質」「トランジション状況」「進捗指標」「結果指標」「看護療法」の6要素からなる理論的枠組みを開発した。トランジションの特質は「気づき」「エンゲイジメント」「変化と差異」「時間間隔」「重大ポイントと出来事」であり、これらの特質は複雑な過程で関連し合う特質である。トランジション状況の促進要因・抑制要因として「意味」「文化的信念と態度」「社会的経済的地位」「準備性と知識」があり、これらの状況がトランジションの過程を促進あるいは阻害しトランジションの結果に影響を与える。⁴⁾⁵⁾

トランジション過程は対象や状況によって様々な反応があり、支援の方法も異なると考えられる。看護師のキャリアにおけるトランジションがどのようなものであるのかトランジション理論を使い、具体的な支援に適用できる理論へと発展させることが必要であろう。

また、キャリアトランジションとは、「キャリアの転換期であり、キャリアの節目に自分のキャリアを選択し、進んでいくこと」⁶⁾である。しかし、トランジション理論についての既存の研究は数が少なく、看護師のキャリアトランジションを促進する方策はまだ明確でない。そこで、本研究では看護師がどのようなトランジションのプロセスを経てキャリアを継続しているのか、また、トランジションに必要な支援とはどのような事なのかについて、トランジション理論を活用し、新たな状況特定理論を目指し明らかにすることを最終目的と考え研究に着手した。このことは看護師のキャリア支援・継続において、ひいてはマンパワーの不足の解消についての示唆を得ることができると考えた。

2. 研究の目的

Meleisのトランジション理論枠組みを用い、キャリアの転換期である中期キャリアの看護師のトランジション状況を明らかにする。ここで得られた結果をもとに中期キャリアの看護師のトランジション状況自己評価尺度を作成し、活用可能性を検討することを目的とする。

方法：中期キャリア看護師の「トランジション状況」を質的帰納的に分析し、明らかになった中期キャリア看護師の「トランジション状況」を基に、中期キャリア看護師トランジション状況自己評価尺度を作成する。尺度の信頼性・妥当性を検討後、尺度を試用し活用可能性の検討を行った。

3. 研究の方法

研究1

研究協力者は35歳～45歳の中期キャリアの女性看護職のうち、現在正規職員で病棟に勤務する看護師に機縁法で依頼をし、研究の同意を得られた18名であった。属性に関する質問の後に、Meleisのトランジション理論の「トランジション状況」の個人の状況である「意味」「文化的信念と態度」「社会の経済的地位」「準備性と知識」や地域の状況、社会の状況をもとに、半構造的面接をし、質的帰納的に分析を行った。トランジション状況についての語りを抽出し、抽出されたコードをカテゴリー化した。さらに、これらのカテゴリーをトランジション理論に基づいて、「《個人の状況》」「《地域の状況》」「《社会の状況》」に分類し、構造化した。なお、分析の妥当性を確保するために、研究者からスーパーバイズをうけた。

研究2

首都圏近郊の地域に勤務する中期キャリアである35歳から45歳の病棟勤務の女性看護師を対象に、研究1の研究結果から得られた中期キャリアのトランジション状況を構成する下位概念およびサブカテゴリーから作成したトランジション状況自己評価尺度原案25項目を郵送法で回収した。分析方法は、対象者特性、尺度原案の記述統計値の算出、尺度原案25項目の項目分析、I-T分析、項目間の相関分析を行い、削除項目を検討し、その後尺度原案の構成概念妥当性の検討を行った。尺度原案の併存的妥当性を検討するために、成人キャリア成熟尺度27項目を使用し、信頼性の検討を行った。

研究3

研究2と同じ対象に、Meleisのトランジション理論および高桑の看護ケアに影響があるとされた属性を参考に、トランジションの本質と反応のパターンの内容で作成した調査表実施し、を郵送法で回収した。

研究2.3の分析にはSPSSを使用し、有意水準は5%未満とした。

4. 研究成果

(1) 研究 1: 中期キャリア看護師のトランジション状況は個人の状況として【看護師として働く魅力、意味の確認】、【組織・上司・他者からの推薦・要望】、【変化を期待した職場の異動】、【看護師としてのスキル形成】、【希望する働き方の選択】、【意図しない状況への対処】、【体力や気力の安寧】の7つが、地域の状況として【働きやすい場の選択】が、社会の状況として【ライフステージに伴う転機】に分類され、合わせて9カテゴリーから構成されていた。中期キャリア看護師のトランジション状況の《個人の状況》、《地域の状況》、《社会の状況》は相互に関連した状況であり、トランジションの促進状況や抑制状況に関わっているという構造が示された。中期キャリア看護師の《個人の状況》、《地域の状況》、《社会の状況》のトランジションには互いに関連して次のトランジションの段階へと進むと考えられた。今後は中期キャリア期にある看護師が望む次の状況への移行が可能になるようなキャリア支援が重要となると示唆された。

(2) 研究 2: 9施設 791名に配布し、319名(回収率 40.3%)から回答があった。そのうち 300名を分析対象とした。(有効回答率 37.9%)
中期キャリア看護師のトランジション状況自己評価尺度原案は、探索的因子分析で「看護師として働く意義の確認とキャリア形成への努力」「改善を期待した職場の移動・転職」「組織・上司・他者から評価の獲得」「職場や家庭の役割変化に応じた対処」「キャリア形成を促進できる職場選択」「ライフステージを考慮した働き方の調整」の 23 項目 6 因子で構成され累積寄与率 60.1%であった。さらに確証的因子分析で、一般的なモデルの適合度の許容範囲を示した。また、尺度原案の総得点と成人キャリア成熟尺度総得点との間に中程度～強い相関がみられ併存妥当性は支持された。さらに、クロンバック 係数は尺度原案全体、各因子で 0.7 以上であり尺度と質問項目の信頼性は確保できた。以上から、中期キャリア看護師のトランジション状況自己評価尺度原案は構成概念妥当性・信頼性・妥当性確保した中期キャリア看護師のトランジション状況を自己評価できる尺度であると考えられた。

(3) 研究 3: TCSAS の正規性の検証後、総得点の 1SD 以上を高得点群、-1SD 以下を低得点群に分け t 検定、2 検定による群間比較を行ない、その結果下位尺度と尺度全体で弁別力があり、トランジションの本質項目「学位、資格の取得の希望」「仕事のストレス」「労働条件満足」「職位の取得希望」「親に関する変化の有無」「自身の進学による変化の有無」、反応のパターン項目「職場の仲間の存在」「仕事の協力者の存在」「キャリアの目標の明確さ」「仕事のやりがい感」「自己肯定感」「仕事への満足感」「看護スキルの習得状況」「仕事の継続意思」で有意差があり、さらに反応のパターンの結果指標として「キャリア中期看護師実践能力尺度得点」「主観的幸福感尺度得点」との間でも TCSAS の高低得点群間に有意差があり、弁別力が示された。本尺度は、中期キャリア看護師のトランジション状況からトランジションの本質および反応のパターンである、進捗指標、結果指標を自己評価できる尺度であり、活用可能性が示された。

以上のことから完成した尺度は、構成概念妥当性、信頼性を有し、本質、反応のパターンに弁別力を持った尺度であることが明らかになり、中期キャリア看護師のトランジション状況を自己評価する上で活用可能な尺度が作成できた。測定された尺度の総合点と下位尺度の得点で自身の現在の状況が明らかになり、停滞しているキャリアの状況を浮き彫りにすることが可能となると考える。それは今までの既存のキャリア尺度では測定できなかったキャリアドリフトを含む迷いや、家族や他者を優先しなければならない状況を明確にすることが可能になると考える。本研究で開発した本尺度は、自己のキャリアを内省し、行き詰まりや停滞に気づき、トランジションを促進させる機会をもたせ、キャリア発達に資することができる尺度であると考えられた。これにより、安易な看護職の離脱を防ぎ、増え続ける潜在看護師化の歯止めとなり得るといえる。

【参考文献】

- 1) 看護職員確保対策について、第 33 回社会保障審議会医療部会資料 2、厚生労働省、2013
- 2) 鈴木美和：職業経験評価尺度-看護師用-、看護実践・教育のための測定用具ファイル 1 版、医学書院、2006
- 3) 高桑優子他：病院で就業する看護職者の看護ケアの質に関する研究 職業経験の質に影響する要因について、日本看護学会論文集 看護管理、2010
- 4) Meleis、看護における理論検証、臨床看護、1986
- 5) 増野園恵：概説 Transitions Theory/トランジション理論、看護研究、49-2、2016
- 6) 金井壽宏、働く人のためのキャリアデザイン、PHP 研究所、2011

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 高桑優子、青木きよ子	4. 巻 15-1
2. 論文標題 病院に就業する中期キャリア女性看護師におけるトランジション状況	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 医療看護研究	6. 最初と最後の頁 8-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 高桑優子
2. 発表標題 Meleisの移行理論を枠組みにした中期キャリア看護師のトランジション状況自己評価尺度の開発
3. 学会等名 日本看護科学学会、2019.12.1、金沢
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Takakuwa
2. 発表標題 Development of transition conditions self-assessment rating scale of Japanese Mid-career nurses based on Meleis transitions Theory
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science , 2020.2.28,Osaka (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高桑優子、青木きよ子
2. 発表標題 中期キャリア看護師におけるトランジション状況の様相
3. 学会等名 第22回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 YukoTakakuwa KiyokoAoki
2. 発表標題 Conditions involved in the Work Transition in Mid-career Female Nurses Working in a Hospital
3. 学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高桑優子、青木きよ子
2. 発表標題 Meleisの移行理論を枠組みにした中期キャリア看護師のトランジション状況自己評価尺度の活用可能性の検討
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会(東京WEB)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関